

節水栽培と田植え時期の分散について

昨年から続く少雨により、現在、用水不足が深刻化しています。今後、まとまった降雨があったとしても、田植え時期だけでなく、夏にかけて水不足が続くことが懸念されていますので、田植え時期の分散にご協力ください。

節水栽培の目安（用水が極端に不足する場合）



飽水管理: 入水後に自然減水させ、所々の窪みに水が溜まっている状態になったら再入水を繰り返す管理

- 水稲は生育段階で必要な水の量が異なります。最も必要とする時期は、**田植え直後(活着期)**と**幼穂形成期～穂ばらみ期**です。
- 特に田植え前後(代かき～活着期)は多くの水を必要とするため、引き続き用水が不足する場合、地域で話しあい、**田植え時期を分散**することで限られた水を有効利用しましょう。

田植え時期ごとの生育目安



※その年の気象条件によって生育時期は前後します。登熟後半の気温低下による登熟不全を回避するため、ひとめぼれ・コシヒカリは6月末まで、あさひの夢は6月25日までの田植えを目安としています。

渇水に対する水稻の技術対策

本田準備

- 耕耘は丁寧にいき、田面を平らに整え、土塊を小さくして細かい土を増やす。
- 用水路の補修、畔シートの設置、丁寧にあぜ塗りや代かきにより、浸透による漏水を防止する。
- 代かきから田植えまでの期間をできるだけ短縮し、不要な落水をしない。

育苗

- 用水不足による育苗期間の延長を前提として、ムレや徒長を防ぐために厚まきを避け、播種量は一箱あたり催芽粉で130g以下を目安とする。
- 用水不足により田植えを遅らせる場合、以下の管理を行うことで育苗期間を延長させる。
(ビニールプール育苗の場合)

1. プールの四隅を切るか、周りの角材をはずして完全に落水する。
2. 灌水は極力控え、灌水する場合はシャワーで上から灌水する。
3. 苗が徒長ぎみである場合や、ムれる心配がある場合は、最長葉の半分くらいを切る。
(葉色が黄色くなり、苗の伸びが止まる。)
4. 用水が確保でき田植え時期が決まったら、プールに水を張り苗に追肥を行う。
5. 追肥は田植え4～5日前(遅くとも田植え3日前)とし、田植えまではプールの水は深めに保つ。
6. 一箱あたり硫安3～5gを水約500mLに溶かしてジョウロ等で施用、施用後は葉焼け防止のため真水で葉面を洗い流す。

除草剤の散布

- 除草剤は1キ口粒剤等の初中期一発剤を散粒機で散布することが望ましい。
(拡散～処理層形成に時間がかかるため、ジャンボ剤・フロアブル剤などを避ける)
- 除草剤散布後4～5日以上湛水状態に保つことが望ましいが、用水が不足する場合は最低3日間は田面が露出しないように湛水し、除草剤の効果を担保する。
- その後雑草が発生する場合は、中後期除草剤を散布する。